

困難を抱える子ども・若者(ニート、ひきこもり、不登校)への支援

- 1 現状と課題
- 茨城県におけるひきこもり人口は、内閣府の推計で約1万人とされ、若年層から中高年層にまで広がる深刻な社会課題となっている。社会的孤立や労働力の減少が地域全体に影響を及ぼしており、早期の支援体制の構築が求められている。
 - 県内には10以上の支援機関が存在するものの、利用者数は限定的で、周知不足や支援の地域差が課題である。特に、当事者・家族への情報到達度が低く、支援の一貫性が欠けている現状がある。
 - 地域社会におけるひきこもりへの理解不足や偏見が根強く、家族を含めた支援ネットワークの不足が孤立の長期化を招いている。
 - 就労支援や社会参加の機会も限られており、当事者が地域の中で自立に向かうステップを描きづらい状況にある。こうした現状を踏まえ、地域における相談者の存在と支援ネットワークの強化を目的として本事業を実施した。
- 2 期待される効果
- 地域での支援ネットワークの拡充
 - ・地域住民がひきこもり支援に関心を持つことで、地域内での支援の輪が広がり、当事者や家族が早期に支援へつながる環境づくりを目指した。
 - 当事者や家族への精神的サポート
 - ・ボランティアサポーターの活動を通じて、相談や見守りの機会を増やし、孤立感の軽減と生活改善への糸口を提供することを期待した。
 - 地域社会の理解と共生意識の向上
 - ・講座やフォーラムを通して、地域住民の理解を深め、偏見の是正と共生意識の醸成を促進することを目的とした。

3 事業実践方法

(1) 概要(目的)

「困難を抱える若者(ひきこもり)支援」をテーマに、当事者・家族・支援者・地域住民をつなぐ学びと実践の場を創出した。

ひきこもり支援に関する現状の把握、支援スキルの習得、支援現場の体感、地域での実践活動を通じて、地域住民の認識向上と地域連携の基盤づくりを進めた。

- ひきこもり支援に関する諮問・協議を行う委員会を設置
- 支援の現状と課題を学ぶ講座を開催
- 公認心理師によるひきこもり相談模擬面談ワークショップを実施
- 支援現場((一社)アイネット)の見学
- 県西ひきこもり支援フォーラムへのボランティア参加

(2) 対象者

県民(ひきこもり支援に関心のある方)

(3) 委員の構成(所属先、氏名)

令和6年度

所属	所属
(一社)アイネット	立正大学
筑西保健所	茨城県精神保健福祉センター
県西教育事務所	ひきこもり経験者
県生涯学習課(オブザーバー)	

令和7年度

所属	所属
(一社)アイネット	立正大学
筑西保健所	茨城県精神保健福祉センター
県西教育事務所	ひきこもり経験者
県生涯学習課(オブザーバー)	

※ 各分野の実務者・専門家・経験者により、現状分析と事業方針の検討を行い、ひきこもり支援講座設計の基礎とした。

(4) 具体的な取組について

① 会議・交流会（議）等

令和6年度

期日	内容	出席者等	備考
令和6年 6月14日(金)	必要な支援の抽出 支援者像の明確化 必要な学び・知識	委員・講師 元ひきこもり経験者	第一回委員会
令和6年 7月11日(木)	講座内容の決定	(一社)アイネット 各有資格者	交流会
令和6年 12月5日(木)	講座実施報告	委員・講師 元ひきこもり経験者	第二回委員会
令和7年 3月28日(金)	R7 実践活動について	委員・講師 元ひきこもり経験者	第三回委員会

令和7年度

期日	内容	出席者等	備考
令和7年 4月18日(金)	・ひきこもり支援実践活動協議 ・ひきこもり支援フォーラムへのボランティア参加協議	(一社)アイネット 理事長 浅沼秀司 公認心理士 菊地若菜 職員 平田美鈴	第一回 交流会
令和7年 7月25日(金)	・ひきこもり支援実践活動実施報告 ・県西ひきこもり支援フォーラム活動報告	委員 講師 元ひきこもり経験者	第一回 委員会
令和7年 11月14日(金)	・各委員の取り組み状況報告、今後の連携可能性 ・県域フォーラム活動報告	委員・講師 元ひきこもり経験者	第二回 委員会

<工夫点・留意点>

- ・実践活動をメインに据えた講座・ワークショップを(一社)アイネット協力のもと企画。
- ・ワークショップ及びフォーラム実施報告を共有し、委員からのフィードバックを反映。
- ・委員間で動状況を共有し、地域連携の可能性を検討。



令和7年度困難を抱える若者支援委員会



県西ひきこもり支援フォーラム

② 研修・ワークショップ・講座等

令和6年度

期日	内容	対象者	備考
令和6年 10月17日(木)	困難を抱える若者たち（ひきこもり）の現状と正しい理解	県民 25名	現在のひきこもりに関する課題を把握し、正しい向き合い方を理解する。
令和6年 10月24日(木)	傾聴の基本（話の聞き方、対話の仕方）	県民 25名	事例を元に、参加者でグループを作り、相談ロールプレイを行う。
令和6年 10月28日(月)	ひきこもり支援施設について	県民 23名	ひきこもり相談支援センターの運営状況について学ぶ。

令和7年度

期日	内容	対象者	備考
令和7年 6月6日(金)	ひきこもりの課題（現状・当事者及び家族への接し方）	昨年度の講座受講者11名	ひきこもりに関する課題と当事者及び家族への接し方を学ぶ。
令和7年 10月24日(金)	ひきこもり相談現場を想定した模擬面談 支援施設内の見学	昨年度の講座受講者11名	相談現場を再現した模擬面談を実施。（一社）アイネットにて実際の支援の現場を見学し、実態に向き合う。

<工夫点・留意点>

- ・（一社）アイネットと連携し、ひきこもり支援に関する実践的な講座・ワークショップを実施。
- ・ひきこもり相談模擬面談を通じて相談現場の対応を体験。
- ・実際の支援施設を見学し、当事者支援の現場理解を深めた。
- ・個人情報の保護・当事者配慮を徹底。



ひきこもり支援講座実践編



傾聴ワークショップ（模擬面談）

③ 実践

期日	内容	対象者	備考
令和7年 7月18日 (金)	県西ひきこもり支援フォーラムへのボランティア参加 主催：茨城県ひきこもり相談支援センター 共催：古河保健所・筑西保健所	R7 ひきこもり実践講座受講者11名	R7 講座受講生による県西ひきこもり支援フォーラムへのボランティア参加。
令和7年 9月23日 (火)	令和7年度県域フォーラム座談会開催 テーマ：居場所 主催：茨城県県西生涯学習センター 共催：不登校・多様な学びネットワーク茨城	県民・市民参加者112名	長塚仁夢委員登壇の座談会を開催した。

<工夫点・留意点>

- ・ひきこもり支援実践講座受講者が県西ひきこもり支援フォーラム運営にボランティア参加し、支援活動を体験。相談支援ブースや当事者による体験発表会の運営をサポートした。
- ・不登校・ひきこもり支援をテーマに、令和7年度県域フォーラムを実施。不登校・ひきこもり経験者の語りを通じて「居場所の大切さ」を共有。
- ・2つのフォーラムを通して外部機関と連携し、地域における支援の輪を拡大。
- ・設楽詠美子筑西市市長への視察依頼や茨城新聞への取材依頼等、広報周知活動を行った。



設楽 詠美子筑西市市長挨拶



県域フォーラム座談会

4 プログラム全体の検証

(1) 事業相互の関連

本事業は、講座・ワークショップ・委員会・フォーラムの各取組が互いに連動し、支援の理解促進から実践までを一体的に進める構造となっている。講座で得た知識をワークショップで実践し、受講者はフォーラム運営へ参加することで地域の支援活動に関わる流れが生まれた。また、委員会で各取組の成果を共有し、次の実践へ反映する循環が形成され、支援ネットワークの構築と地域連携の強化につながった。

(2) 成果

本事業により、地域住民がひきこもり支援に関心を持つきっかけが生まれ、支援に向けた地域ネットワークの基盤が強化された。講座やワークショップでは支援スキルや現状理解が深まり、受講者がフォーラム運営に参加するなど実践的な関わりも促進された。また、当事者や家族の思いに触れる機会を通じて「居場所づくり」の重要性が地域で共有され、支援の裾野を広げる成果が得られた。

(3) 課題

課題として、事業の周知不足により参加者が限定される点や、当事者・家族への情報到達度の低さが挙げられる。また、支援の継続性や地域住民の理解促進には時間を要し、偏見解消や支援人材の確保も課題である。さらに、当事者が安心して関われる「居場所」の不足や、支援機関間の連携強化も引き続き求められる。これらの改善に向け、継続的な実践の場づくりと広報体制の強化が必要である。

(4) 今後の展望

今後は、本事業で明らかになった「居場所づくり」の重要性を踏まえ、当事者や家族が安心して参加できる小規模な「居場所カフェ」やテーマ別の勉強会を定期的 to開催し、継続的な支援の場を育てていく必要がある。また、支援機関や地域団体との連携をさらに強化し、相談支援やフォーラム活動を継続的に実施することで、地域における支援の輪を広げたい。加えて、周知不足や誤解を解消するため、講座や広報活動を通して正しい知識を発信し、地域全体の理解促進と偏見の軽減を図っていくことが求められる。